1979年と2017年の社会と吉祥

79年の社会
ウォークマン発売

吉祥祭第79回にちなんで、1979年の日本の社会と吉祥の様子に着目してみよう。

この年、日本ではローラースケートが爆発的人気を博した。街ゆく人の多くが、ローラースケートを楽しんでいた。また、ウォークマン、ワープロ、カード電卓の発売が開始された。その中でもソニーのウォークマンは世界で初めて発売され、日本中のほとんどの店頭で売り切れ続出となった。技術的には決して新しくはなかったものの、カセットとヘッドフォンをつなぐという斬新なアイデアにより世界的なヒット商品となり、音楽業界に大きな影響を及ぼした。今でも、カセット式ではないものの、ウォークマンは一定の人気を保っている。また、ウォークマンは、ローラースケート、デジタル時計と並んで、若者の間で三種の神器と呼ばれるまでになった。その一方でウォークマンを使用しながら行動する若者を社会問題と考える人もおり、「耳をふさぐ若者達」や「雑踏の中の孤独」などと揶揄された。

またこの年の3月、世界中に衝撃を与える事故が起きた。米国ペンシルベニア州でのスリーマイル島原発事故だ。些細な問題により、数々の安全装置が作動したが、人為エラーや故障などが重なり10万人が避難する大規模な事故となった。これを受け、米国内のみならず、日本でも反原発運動が始まった。そんな中、当時の原子力安全委員会委員長 吹田徳雄氏はこの事故に関して、「日本の原発では決して起こらない。」と発言し、安全宣言をした。

さて、1979年において世界中でこのような様々な変動があった。吉祥はどのような様子だったのだろうか。私たちが馴染深いと感じるものの多くはこの年に生まれた。

その1つに中庭の噴水がある。この年の卒業生から記念品として贈呈されたものだ。今、吉祥にある噴水とは別の物で、大きさは今あるものの約半分、円形の池の中に1つの噴水が造られた。この初代噴水の規模は今のものに比べるとかなり小さいが、今と同様、当時の吉祥生に安らぎと語らいの場を与えてくれたのだろう。

また、吉祥祭での祥美会バザーの開始が委員会で決定された。今の祥美会バザーと同様、生徒がそれぞれ各家庭にある品々を持ち寄り、安い値で売った。そしてその売上金を生徒会の活動費に当てた。祥美会バザーは長い歴史を持っている行事だったようだ。

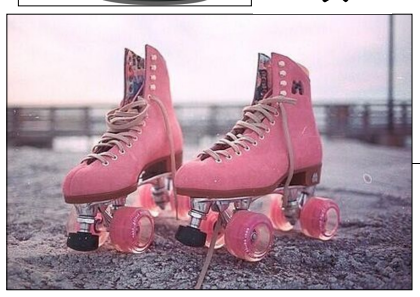
一方で、今の吉祥にはないものがある。当時吉祥は、中学入試に加え、高校入試を実施していた。入試形態は二種あり、普通コースと芸術コースがあった。その中でも、芸術コースには約2000の出願があり、当時の吉祥は芸術系に力を入れていたようだ。

今はもう無くなってしまったものでは、スキー教室と同時期に開催されていたスケート教室などがある。

1979年から38年の間に吉祥は社会の変動とともに、多くの変化を遂げてきたようだ。

（記者署名）

若者の三種の神器
上からデジタル時計、ローラースケート、ウォークマン



吉常～吉祥生の日常～
第26回 心理テスト

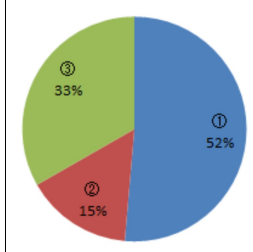
今回の吉常では、中1から高2の計14クラスを対象に心理テストを行い吉祥生の傾向を読み取った。

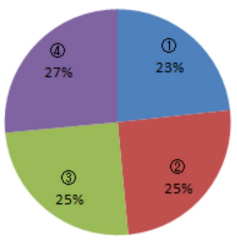
Q1「自分に映画のオファーがきて、出演するとしたらどの役を演じてみたいですか。」これは、答えた人の集団内でのポジションが分かる質問だ。選択肢は、①名脇役としてヒロインを支える、②主演女優、③主人公を苦しめる悪役の3つ。①を選んだ人は「頼りにされるリーダー的ポジション」、②を選んだ人は「力を合わせたい協力型ポジション」、③を選んだ人は「一匹狼的な独立ポジション」となる。全体では①が52%と過半数を占める結果となり、吉祥生の半数以上がリーダー気質であることが分かった。

Q2「あなたはタイムマシーンで色々な過去を訪れました。過去をめぐったあなたが一度も経験しなかった職業はどれだと思いますか。」この質問では、答えた人の潜在能力が分かる。選択肢は①料理人・芸術家、②科学者、③看護師、④企業家の4つ。①を選んだ人は、社会に貢献したい強い実現力、理性とひたむきな情熱、③を選んだ人は、直感的に感じ取る第六感の鋭さ、④を選んだ人は、社会に貢献したい強い実現力、である。回答はどれも同じくらいの数に分かれた。

また、心理テストに加えて、人生で一番大切なものを聞いてみたところ、多かったのが、「お金」・「愛」・「命」・「友達」・「時間」など、身近なものが多く、一般的な答えだと言える。また、珍回答としては、「髪の毛」・「アンパンマン」・「愛と勇気」・「2次元」・「トイレ」・「甘味」・「ジャニーズ」などが出てきた。主に自分の趣味や健康などを考えた結果が多い。

（記者署名）





意外な類似点あり
昔と今の若者達

第79回目の吉祥祭を迎えた今年。1979年から、社会はどのように変化したのだろうか。

1979年に大きな話題となった「ウォークマン」と「ローラースケート」。現在、それらにあたるものとも言えるのが「キャスターボード」と「スマートフォン」だろう。

キャスターボードは、横乗り姿勢で足を前後させることでボードがしなり、平地でも加速できる遊び道具だ。若者を中心に人気を集めている。神経系が急速に発達する時期である「ゴールデンエイジ」と呼ばれる8歳から12歳の子供たちのバランス感覚を養うのに最適である。

全世代に浸透し、生活の一部となっているものとして、「スマートフォン」が挙げられる。スマートフォンの普及により、迅速かつ効率的に情報を得られるようになった。一方、問題点の1つとして「音楽を聴きながら」の歩行・自転車の運転がある。まさに、1979年に問題視されていたことと酷似している。いわゆる「スマホ世代」である私たちだが、「ウォークマン世代」とこんな類似点があったのだ。

スマートフォンの技術の発展を感じるとともに、40年経ても変わらぬ社会の一面を見ることができた。

さて、吉祥女子は1979年からどのような変貌を遂げてきたのだろうか。

第一に私たちの必需品である制服だ。1979年当時の制服は、紺のジャンパースカートに丸襟の白のブラウス、くるぶし上の長さの白のソックスというものだった。それから今の制服に変わり、正装として、白のブラウス、ブレザー、紺スカートもしくはズボンに加え、中学生はリボン、高校生はネクタイの着用が義務づけられた。また、オプションとして、ブルーのブラウス、チェックスカートの着用が可能となった。今年は、中学と高校のブラウスが統一され、新素材への変更が発表された。

今年から工事に着手された新5号館も、未来の後輩達にとって忘れられない大切な吉祥の一部となることだろう。

（記者署名）

若者に人気のキャスターボード

旧制服（上）と今の制服（左）